



室内楽の深い、森

Music from PaToNa、9年目のシーズンのスローガンは「室内楽の深い森」です。シリーズ開始当初、室内楽は、仙台では、まだそこまで多くのプログラムをまとめて聴く機会というのは多くはありませんでした。

10年前、宮城野区文化センターの中に384席のPaToNaホールが作られ、その翌年から、Music from PaToNaはスタートしました。のべ100曲をこえる室内楽の音楽を、文字通りPaToNaホールから皆様へお届けして参りました。

Music from PaToNaでは、当日のパンフレットに曲目解説の文章がありません。その代わりに、オープンゼミナールや、当日の司会による解説で音楽の魅力を、そちらも「生」でお届けしてきました。

音楽監修の三宅進、プランナーの助川龍、西沢澄博が、知恵を出し合い、奏者の目線と、客席の目線を考えながら、工夫を重ね、室内楽の深い森へといざなう試みをしてまいりました。その結果、Music from PaToNaのお客様は「日本一」と言われるほどに、お客様が、音楽を深く味わい体験してくださる空間を積み重ねてくることができました。

プログラムは、「有名曲」だけではなく、とりあげられる機会こそ少ないけれども「名曲」といって間違いない作品を、多く取り入れて構成しています。

演奏機会がそう多くない難しい作品も、奏者とお客様と共に、かみしめながら、その楽曲のもつものを共有して参りました。

また、出演者も、仙台出身、仙台ゆかりの奏者と、現在、仙台を舞台として活躍する音楽家をおりませ、さらには、内外に活躍するベテラン音楽家などを、招聘し、アンサンブルを通じ、経験と、音楽観を共有する豊かな場となっています。

Music from PaToNaの歴史とともに結成年数を重ねるQuartet PaToNaも、音楽づくりを通しながらの進化が見えます。

2022年度は、再び、【プロデューサー制】で、皆さまに個性のあるプログラムをお届けします。とことん音楽の深淵に浸るプログラムもあれば、バラエティに富んだ編成や楽曲によるお祭りのような公演もございます。様々な形で、音楽と出会えるのが、Music from PaToNaの最大の魅力。

各回詳細は次頁からをご覧ください。

音楽監修 三宅進 仙台フィルハーモニー管弦楽団チェロソロ首席奏者

プランナー 助川龍 仙台フィルハーモニー管弦楽団コントラバスソロ首席奏者

プランナー 西沢澄博 仙台フィルハーモニー管弦楽団オーボエ首席奏者